とどけ夢 未来へ
-DREAMING-

針谷 采芽（あやめ）さん

●吉水小学校６年

夢に向かって

私の将来の夢は、美容師になることです。私は髪の毛を切ってもらうと、とても気持ちが良くなります。「人の気持ちを変えられるなんてすごいな」と思いました。私も人の気持ちを変えられる美容師になりたいです。

美容師になったら、ヘアデザインコンテストに出て、入賞したいと思っています。

美容師になるためには、国家試験に合格しなければなりません。毎日の学習に一生懸命取り組み、夢の実現に向けて頑張りたいです。

みんなの広場

佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からのメッセージ

いよいよ夏本番、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

先月14日、北海道の佐呂間町を訪問してきました。佐呂間町は北海道の北東に位置し、オホーツク海に面する人口５３００人ほどの街で、日本で３番目に大きいサロマ湖を有しています。その佐呂間町には、足尾鉱毒事件の被災者であり、現在の栃木市藤岡町の谷中村から集団移住した人たちが開拓した「もう一つの栃木」と言われる栃木地区があります。４年前の平成25年に佐野市で開催した田中正造翁没後100年顕彰記念式典の際には、遠く佐呂間町から訪問団を結成し、式典に参加していただきました。それ以来、次はこちらから佐呂間町の栃木地区に伺いたいと思っていましたが、今回ようやく実現させることができました。

現地では栃木地区を訪れ、４年前に本市を来訪された方々にお会いしました。残念ながら当時団長であった千葉さんはお亡くなりになっていましたが、千葉さんの奥さんにお会いし、当時のお礼を伝えることができました。また、佐呂間町長への表敬訪問では、田中正造翁の縁をきっかけとして現在行われている民間交流の絆をますます深めていくことを約束してきました。町長をはじめ、佐呂間町の皆さん方にとても温かく迎え入れていただき、訪問してよかったなと感じました。

さて、市内各地では、先月から夏祭りが開催されています。先月23日の「たぬまふるさと祭り」を皮切りに、11日・12日には「さの秀郷まつり」、26日・27日には「くずう原人まつり」と続きます。さらにお盆を彩る「三毳山大文字焼き」など、各祭りそれぞれ工夫を凝らした盛りだくさんのイベントとなっていますので、ぜひ皆さんもご参加ください。

暑い日が続きます。水分補給を忘れず、元気に夏をお過ごしください。

岡部正英

今回の表紙　「流しそうめん」平成２９年７月７日撮影

大祝町にある呑竜幼稚園では、園庭で夏の風物詩「流しそうめん」を行いました。次から次へと流れてくるそうめんに、子どもたちは大喜び！お天気にも恵まれ暑い日でしたが、暑さも忘れ、友だちと一緒に楽しんでいました。

人キラリ★ 話題の「ひと」

川合 將義（まさよし） さん
（鐙塚町）

〇プロフィール
３年前に佐野市へ移住。
佐野市民大学企画運営委員、楽習講師として活動。
平成９年１２月より約１４年間、高エネルギー加速器研究機構に所属。

生涯学習は「生きる幸せ」

川合將義さんは、佐野市民大学の企画運営委員をボランティアとして行っています。最近では、平成28年度後期第３回講義「未病先病～がんや成人病を予防するライフスタイルとは」を企画し、講師として（公財）ルイ・パストゥール医学研究センター室長である宇野賀津子さんを迎え、講義や抗酸化実験、手首リンパマッサージの指導をしていただきました。講義終了後のアンケートでは、受講した方から「がんや成人病を予防するため、食事に気をつけようと思いました」「正しいこと、真実を知ることが大切だと思いました」などの感想が寄せられ、好評だったそうです。

自身が企画した中で印象に残っている講義として、川合さんは昨年９月に開催した「能、その幽玄な美を探る」を挙げてくださいました。金剛流能楽師である熊谷伸一さんを講師に迎え、日本の伝統芸である能の気品ある美しさを作り出すための工夫について、装束や能面などを使って解説していただいたそうです。受講した方からは、「能の奥深さを知ることができたので、今後の人生に少しでも役に立てたい」との声があり、「多くの人に能のすばらしさを知ってもらうことができ、これまで企画・準備してきたことが報われたと感じた」と話していました。

佐野市民大学以外にも、川合さんは市民の学習活動を支援する楽習講師としても活動しています。講座の専門分野は物理・工学・放射線と社会で、白黒模様のコマを回すとさまざまな色が付いているように見える「ベンハムの独楽（こま）」の講義は、特に人気があるそうです。

趣味として、自宅の家庭菜園で四季折々の野菜作りや園芸を楽しんでいる川合さん。「最近ではブルーベリーが実をつけ、友人たちに配りました」と嬉しそうに話してくださいました。

皆さんも川合さんやほかのスタッフとともに、佐野市民大学で楽しくボランティアをしてみませんか。

（市民記者　佐藤久夫）

中央の熊谷伸一さんが講師を務めた「能、その幽玄な美を探る」では、能を披露し、解説を行いました。

佐野弁 ばんざい

干した物を取り込むことは、一般的にオッコムという

夕立雲が出て雨が降り出す前に、あるいは陽が沈みかける前に、天日（てんぴ）に干した布団や洗濯物などは家の中に取り込みます。穀類（米・麦・そば・豆類）は、納屋またはその軒先などに取り込みます。このように適切な場所にまとめて取り込む（取り入れる）ことを、方言ではオッコムといいます。

佐野地域（主に田沼地区や葛生地区）は、昔から麻の生産地として知られていました。昭和40年頃までは、多くの農家で麻を栽培し、それによる収入は家計の大きな支えとなっていました。成長した麻の根や葉を切り落とし、麻（苧）には熱湯を浴びせ（この作業を「湯掛け」という）、翌朝その麻を天日（てんぴ）に当てて乾燥させます。夕方になると、その麻を束（たば）ねて納屋やその軒下に取り込みます。このように乾燥させて取り込むときによく使われたのが「オッコム」という方言でした。中高齢者の中には、今でも「オッコム」という人は大勢います。

「カミ（北）の方で、ごろごろさまが鳴り出したンミテーだから、畑仕事をやめて、麻や洗濯もンをオッコンベジャネーケー（取り込みましょうよ）」

オッコムの語源は「押し込む」、これが変化して「おっこむ」となりました。狭いところに無理に入れる・閉じ込めるという意味でしたが、後に取り込む・取り入れるという意味に変わってしまいました。意味の変化したことば、これが現在使われている佐野方言「オッコム」です。

（市民記者　森下喜一）